

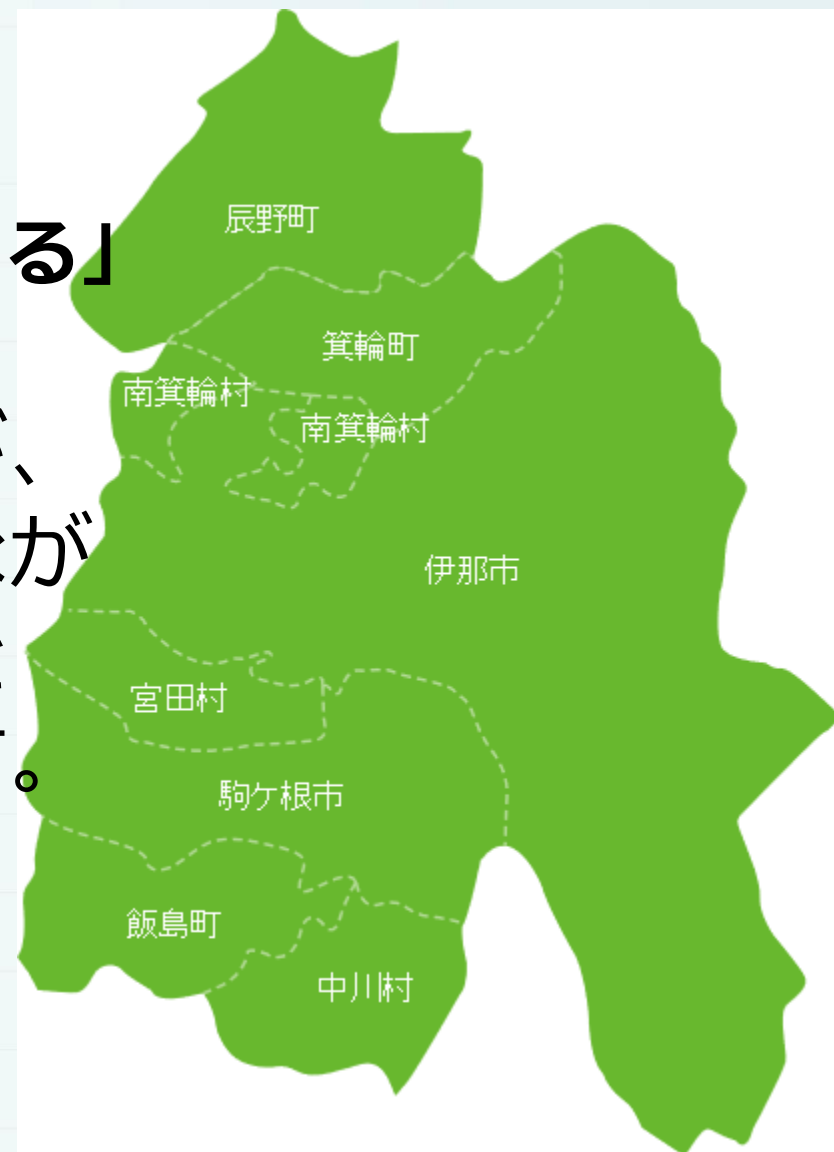
郷土愛プロジェクト (長野県上伊那郡)



郷土愛プロジェクトとは

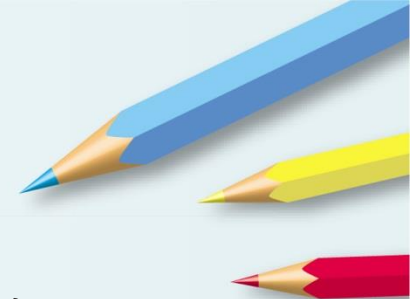
郷土愛プロジェクトの思い
「地域に学び 地域をつなぐ
地域の力でふるさと未来をつくる」

上伊那 8 市町村の産学官組織が、
従来の枠組みを超えて協働しながら、
次世代育成や地域づくりを
実践しているプロジェクトです。





郷土愛プロジェクト会長 向山孝一



私たちの伊那谷は、美しい空、清らかな水、雄大な山々に囲まれ、その恵みを受けて、穏やかな気候のなかで、人々が互いに深くつながり合って暮らしています。

今を生きる私たちは、10年後、20年後、30年後の伊那谷に、どんな人・もの・ことをつないでいけばいいのでしょうか。伊那谷の自然・文化・歴史と結び合いながら営んできたこれまでの暮らしを、どう考え、何を次世代につないでいくことが望ましいのでしょうか。

2027年にはこの伊那谷にリニア中央新幹線が走り、良きにつけ悪しきにつけ大きな変化が来ると言われています。郷土愛プロジェクトは、「これからの伊那谷について、上伊那の産業界、教育界、行政、家庭、地域が深く結びつき、互いに知恵を出し考え合いながら、よりよいふるさとの未来を担う人材を育成したい」という思いで立ち上げました

【地域の課題】

地域の若者の人口流出
少子高齢化、人材不足・・・
そもそも、大人も子どもたち
も地域のことを知らない！？

⇒本当に地域存続危機では！

⇒どうにかしたい⇒どうにかするしかない！

⇒先人の皆様がそうしてくれて「今」がある。

⇒我々は伝えていくべき義務があるのではないか。

プロジェクト発足の経緯



2004年～
「職場体験学習」
経協上伊那支部
青少年育成委員会

- 2012年～
- 「郷土愛めぐり」
- (郷土愛PJ)
- 経協地域活性化委員会 等
- 2011年10月 於 首長懇談会
- 産業観光に関する議論
- 産業観光資源の発掘

2013年～
「キャリア教育3チーム
合同会議」
伊那市キャリア教育推進委員会
と経協等とのコラボ



2014年2月 「伊那市キャリア教育推進委員会への提言」

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| ①キャリア教育憲章 | ⇒ 地域の次世代を担う子供を地域で育成 |
| ②郷土愛めぐり | ⇒ 地域の魅力発掘から「 <u>産学官交流会</u> 」へ |
| ③親子で企業訪問 | ⇒ 地域の“職”に出会う「 <u>夢大学</u> 」へ |



2014年10月～
「郷土愛プロジェクト」として活動

構成団体



長野県教育委員会

上伊那市町村教育委員会連絡協議会

上伊那小・中校長会

上伊那地区高等学校長会

信州大学農学部、上伊那PTA連合

長野県経営者協会上伊那支部

伊那商工会議所

駒ヶ根商工会議所

長野県商工会連合会上伊那支部

長野県テクノ財団



上伊那 8 市町村教育委員会

上伊那広域連合（事務局）



キーワードは「つなぐ」



ふるさとにつながる子どもの育成

～地域社会とのかかわりを「つくる・つながる・広げる・考える・語る・拓く」キャリア形成～

幼保園～小学校

中学校

高校

大学

社会人



生まれてよかった！
誕生おめでとう！



私の得意なこと好きなこと
はこれ！
あなたのいいところはこ
こ！



私の得意を活かしていきたい！
私は「こんな自分になりたい！



私はこんなライフキャリア、ワーク
キャリアを歩みたい。
地域人としてこんな生き方をしたい。

自己有用感

自己肯定感

自己効力感

親から学ぶこと
愛されている心地よさ
誕生の喜び(親・子ども)
親から必要とされること

友達・学校から必要とされること
友達や身近な人の為にできること
親・友達・学校・地域から学ぶこと

自分にできること・やりたいこと
多様な社会を理解する・社会から学ぶ
社会のためにやるべきこと

友だち(かかわり)

家庭
(原点)

学級・学校
(集団の中での自分)

日本社会・世界(学ぶ・探求・自分との関係性・考え・行動・拓く)

地域社会(出会い・知る・体験) ひと・もの・こと

信州型自然保育

発達段階に応じた「フィールドワーク」地域に出る・知る・考える・アクション

放課後子ども総合プラン

職場体験・インターンシップ・キャリアフェス・アントレプレナーシップ教育

信州型コミュニティスクール

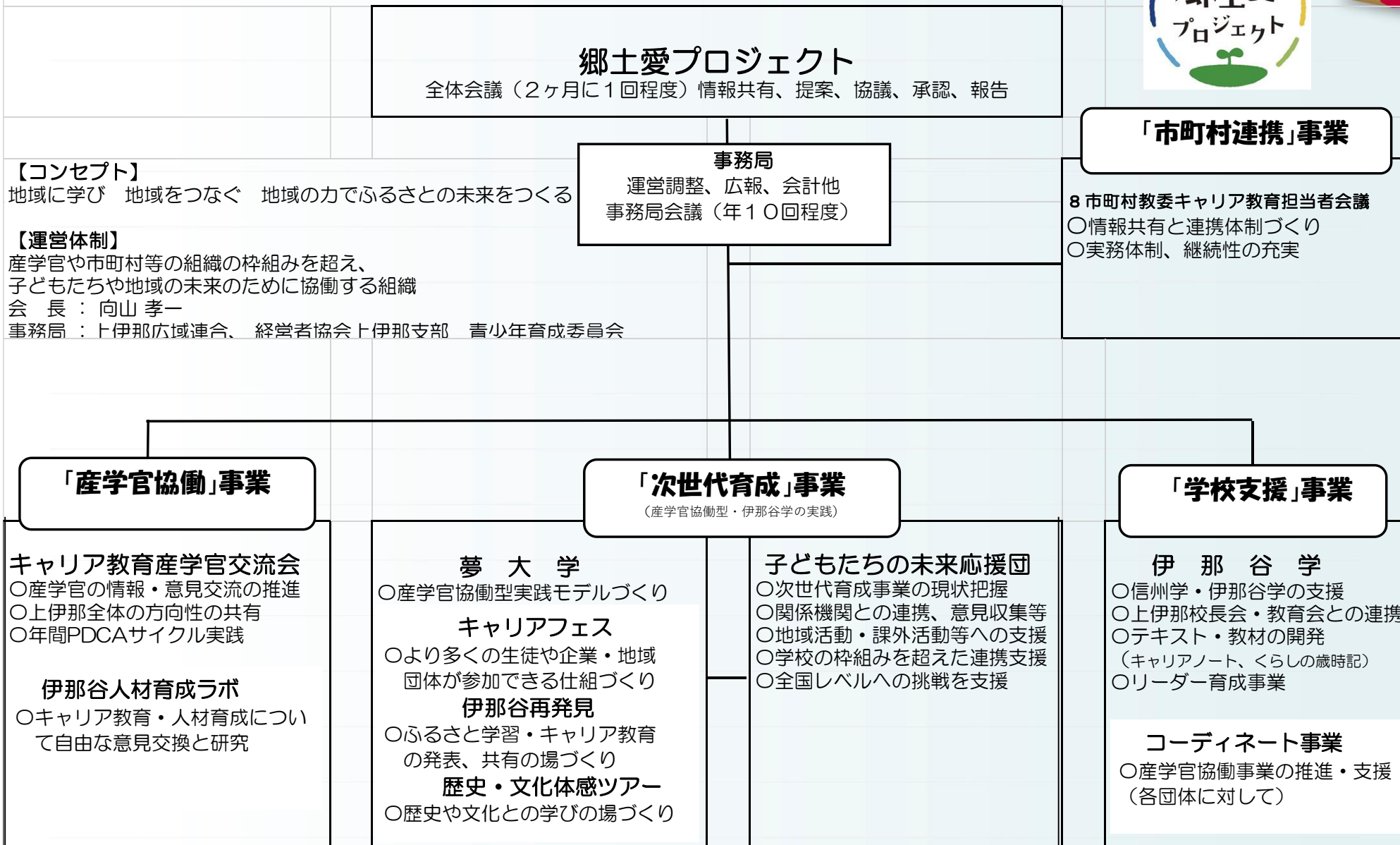
企業との協働事業(開発・商品化・市場等)
人材育成事業・ネットワーク構築・広報戦略

人・地域社会と協働し、よりよい人生を切り拓く私

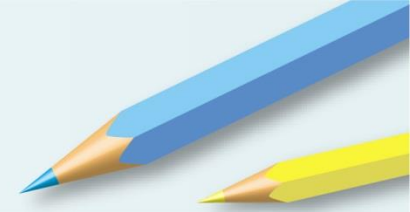
郷土愛プロジェクト組織・事業体系図



◆郷土愛プロジェクト組織・事業図



キャリア教育産学官交流会



課題・内容・成果

【課題】

- ・より多くの産学官交流の場の設定
- ・互いを知る。

【内容】

- ・平成30年度で5回目
- ・分科会(地域課題や地域の取り組みなど)、講演会など
- ・地域課題の共有(若者人材流出、産業界の人材不足、市町村存続の危機など)

【成果】

- ・お互いを理解し、つながりを持つことで意識改革が図られ協働事業が推進
- ・産学官各々の取組内容
- ・「知り合う」ことから「つながる」へ→アクション



感想

産業界

キャリア教育に
どのように企業が関わればいいのか
分かった！

行政

産学官の交流で新しい気づきが
いっぱいあった！ 実践したい！

**93% 以上の参加者が
交流会の必要性を実感！
(アンケートより)**



学校

キャリア教育のイメージが変わった！
地域と連携していきたい！

地域

地域が一体となったキャリア教育を
していきたい

課題・内容・成果

キャリアフェス

＝地元の企業や事業所、地域人を学校に招いて＝

【課題】

- ・子どもは地域の人、企業、各種団体等を知らない。
- ・地域の祭りや伝統芸能などについての知識が少ない。

【内容】

- ・小学校、中学校、高校で発達段階に合う実施内容・展開
- ・企業、団体ごとに内容がわかるブースを作ってもらい、生徒、児童がいろいろなブースを回り、体験をしたり取り組みの話聞く。

【成果】

- ・上伊那にも多くの企業があり職種も幅広いことを知る。
- ・地域に住む人の職業観・人生観・郷土愛にたくさん触れる。

中学校



キャリアフェス in 東中 ～ふるさとの軌跡をたどり 未来を描こう～



私の住む地域には、こんなに生きることに関心な大人がいる！



キャリアフェス

高等学校



・高校生というより就職に近い立場で、卒業生で上伊那地域の企業などで活躍している方などに来ていただき企業紹介や働くことについて高校生に話をしてもらった。



・実際の就職に結び付いたケースもある。

「やりたいこと」より「なりたい自分」

・社名や業種で選択したり評価したりしやすい高校生に、各社が求めている職種を明確にしてもらい、1つの会社には多くの職種があることを知らせた。



キャリアフェス

小学校



小学生の知っている
「地域」の実態調査



調査結果を地域の方と
精査する



「子どもに伝えたいこと」
「子どもに広めたいこと」
の決め出し



参加企業・団体の決定
(地元商工会からの声
掛けもあり)



- * 教科学習とのつながりを考えた出展内容
- * 地域の人と語り合う
- * 地域の歴史文化に触れる
- * 地域の企業を知る

「だいすき飯島をもっと知る！」

「飯島から世界へ 世界から飯島へ」





伊那谷再発見 ～わらべのふるさと大行進～

市町村共催事業



目的: 地域を題材に、小・中・高が取り組んだ活動を互いに発表 し合い「ふるさとを愛し、ふるさとを語れる」子どもを育成

参加校: 小学校5校・中学校1校・高等学校2校 計8校

参加者: 参加児童・生徒: 200名 保護者等 参観者 250名

①中川西小 5年	和太鼓演奏:「夏まつり～百年桜によせて～」
②南箕輪小 6年	わたしたちの南箕輪『南箕輪の昔話』
③宮田小 1年	おいしいきゅうしょくたんけんたい
④伊那西高 生徒会	JR沢渡駅環境整備活動「我が駅 JR沢渡駅」
⑤飯島中 2年	IYTプロジェクト ～飯島を有名にし隊！～
⑥赤穂東小 4年	みんなが集まる駒ヶ根駅に
⑦農業高校 畜産班	Dear Deer ～鹿が結んだ地域の輪～
⑧七久保小 6年	駅の活動が教えてくれたこと



小・中・高の枠を超えて学習を
共有し、語り合う子どもたち





夢大学「夢を大きく学ぶ・語る」

地域に生きる人や自然・先人・産業・歴史・文化から学ぶことを通して、自分の心に向き合い、お互いの夢や思いを理解し合う機会の創出



教職員対象

高校生対象

保護者対象



地域に学び
地域をつなぐ
地域の力でふる
さとの未来をつ
くる



長野県歴史館ツアー

企業さんが一日歴史館を貸し切ってください、「地域の歴史文化を学ぶ日に。」

- 2018年10月28日(日)
- 目的: 未来ある上伊那の子どもたちが、現代に至る人々の営みを学び合う
- 参加者: 上伊那地区小学校5・6年生と保護者 計57名
- 内容: 長野県歴史館見学・千曲市古墳館・森将軍塚古墳見学

参加児童の感想

(前略)6年生になって歴史はいろいろ勉強したけれど、歴史館ツアーに参加して、縄文式土器だけでなく弥生式土器にも薄く模様があることや、縄文と弥生の土器に質感の違いも触ってみて初めてわかり、たくさんの新しい発見があり、とても楽しかったです。ますます歴史に興味が湧きました。

保護者の感想

子どもの頃から考古学に興味があり、今回子どもに同行しました。バックヤードを見学でき、普段では体験や見学できない考古の世界にどっぷりつかることができました。(中略)今後もこのような機会を設けていただき、多くの子どもたちが、実際の物を見て、触れて体験する会を子どもたちに提供していただければと思います。



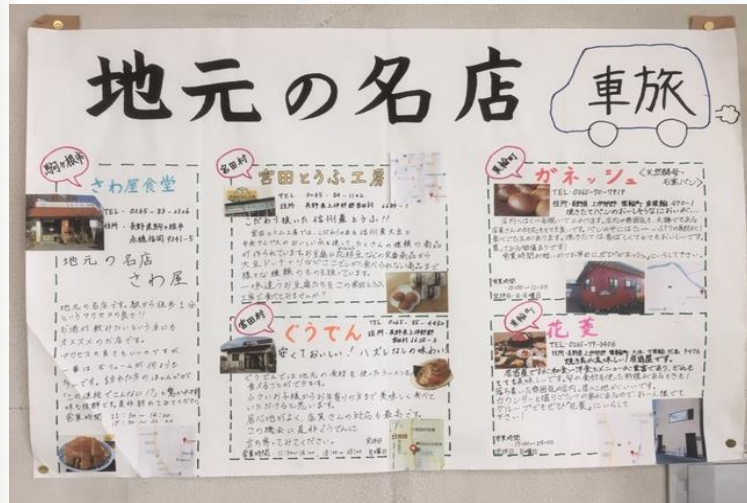


縄文時代ってみんな仲良しでけんかがなかったんだ！



知らなかった地域の歴史にふれる喜び・本物に出会う感動！

子どもたちが行う地域活動、スポーツや芸術・文化等の活動に対して支援 子どもたちの未来応援団



上伊那全地区の高校の活動実態調査

上伊那の小中学校の総合の活動調査

各学校の特色
チーム・個人での活躍

地域に根ざした活動を助成
していこう！



／ 飯島中学校3年1組から飯島町のみなさまへ ／

防災イベントのお知らせ

2018年 12月6日 木 13:30-16:30
飯島町文化館 中ホール

飯島中学校3年1組では、1年次から防災について学んでいます。今回は災害時の情報について、町民のみなさんと学習します。当日は、授業を見学していただくとともに、「臨時災害放送局」の設置から実際の機子参加者全員で学習します。あわせて「臨時災害放送局」長の船池先生に災害時の心理学についての講演を行ってまいります。

防災減災の心理学

あなたの「心の備え」、大丈夫？

13:45-14:30

船池 隆 先生

災害では情報や知識だけでなく、心の備えが重要です。適切な知識が多く出てくることがあります。これは重要な知識であり、私たちには強い心を育てたいと心掛けています。この心理学の授業は、災害から自分や家族を守る方法を考えます。

マイラジオでFMキャッチ!

ご自宅でも臨時放送局の電波キャッチ！
所蔵は毎日有線放送で聴取します。

14:30-16:15

FMラジオを
ご活用ください！

「臨時災害放送局」

臨時災害放送局とは・・・
この夏の日本全国では、個々の自治体で臨時災害放送局が設置され、地域の声を届けて、災害発生時に活用されています。これは、災害、地震等の、大規模な災害が発生した場合に、被害を軽減するために役立つものです。

主催：飯島中学校3年1組 飯島町臨時災害放送局
共催：飯島町教育委員会 飯島町 飯島町教育委員会 飯島町プロジェクト
問合せ：飯島中学校3年1組担任 飯島町33
TEL 0265-58-2020

30年度応募数
小:2 中:6 高:2
地域団体:1
助成額:40万円
内容 伝統文化1・スポーツ2・音楽1・地域活性化2・地域巡り2・歴史1・地域課題2



地域連携事業（行政とのつながり）

キャリア教育担当者会議・・・各市町村に置かれているキャリア教育担当者

各市町村におけるキャリア教育推進計画・実施

各市町村のキャリア教育情報の共有

各市町村とのキャリア教育連携事業の実施

各市町村におけるキャリア教育推進計画・実施

職場実習のあり方検討
職場実習の日程調整

キャリアノート部会

現場の先生方とのチーム
地域に合うノートづくり

小中学校でのモデル実施地区での実践と省察





成果と課題

「地域に根づく学びの風土」をつくる・活かす郷土愛プロジェクト

【成果】

- * これまで事業の継続や積み上げにより、産学官それぞれに「郷土愛プロジェクト」の知名度があがった。（産業界が本プロジェクト立ち上げに声をあげたことは大きい）
- * これまで産学官それぞれが独立して子どものキャリア形成に関わってきたが、産学官共々に同じ目線で子どもたちを見つめ、育てていこうとする「向かうべきベクトル」が一つになりつつある。（産学官winwinの関係づくり）
- * 当初は、郷土愛プロジェクトからの働きかけが多かったが、成果等のアウトプットにより、各学校や産業界、行政から郷土愛プロジェクトへの働きかけも増えてきている。

【課題】

- * 幼小中高大の発達段階を踏まえたキャリア形成・キャリア教育の在り方を考え、長期ビジョンに立って、継続的に事業を推進していく必要がある。そのためには、幼小中高大のキャリア形成視点に立ったつながりを、互いに共有したい。同様に産業界に対しても将来を見据えてのキャリア教育の意味を十分理解してもらい、教育へ地域の力を入れていくようにしたい。
- * 義務教育時代は、学校生活の中で地域とかかわり地域に学ぶ機会が多いが、高校教育では地域とのつながりが十分とは言えない。将来の自分の希望や生き方を考えていく高校教育へ「地域に地盤を置いたキャリア教育」の推進をしていきたい。